第６５回岐阜県学校保健研究大会

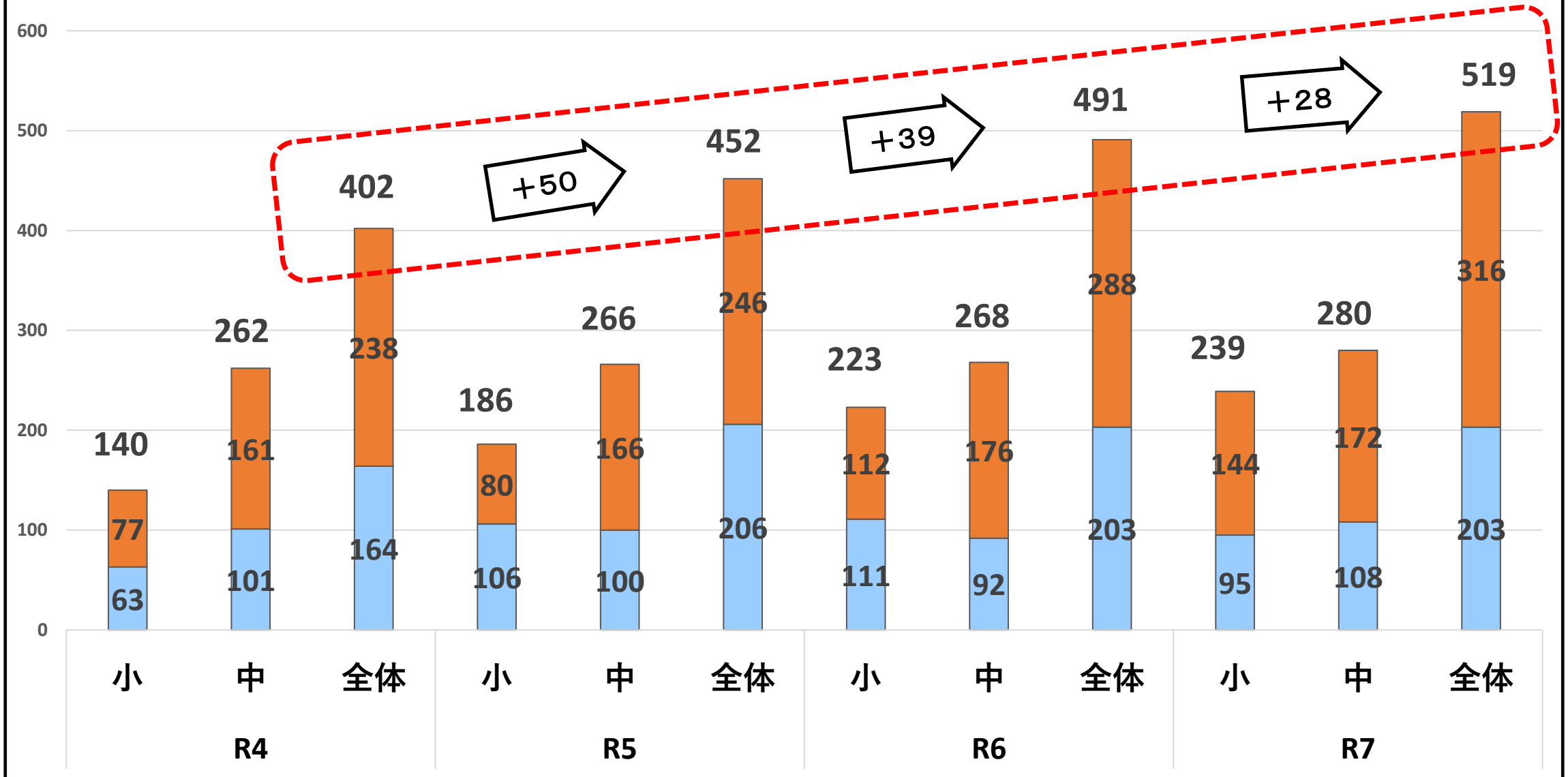
心の健康課題とコミュニケーション
～不登校事例から学ぶ対話の力～



令和８年１１月１日（日）

大垣市教育総合研究所

不登校児童生徒数（年間欠席30日以上）



大垣市児童生徒数　11371人（R8.5.1現在）

大垣市における不登校の主な要因

【小学校】

① 無気力・不安
② 生活リズムの乱れ・非行
③ 親子の関り方
④ 学業不振

【中学校】

① 無気力・不安
② 生活リズムの乱れ・非行
③ 学業不振
④ いじめ以外の他児童生徒との関係

「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」

文部科学省　令和元年１０月

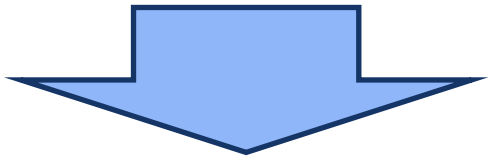
不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方

『不登校児童生徒への支援は，**「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある**こと。また、児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味をもつことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること。』

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」文部科学省　令和５年３月

COCOLOプラン

１．不登校の児童生徒全ての**学びの場を確保**し、**学びたいと思った時に学べる環境**を整える
２．心の小さなSOSを見逃さず、**「チーム学校」で支援**する
３．学校の風土の「見える化」を通じて、学校を**「みんなが安心して学べる」場所**にする



・不登校特例校（学びの多様化学校）の配置の促進
・校内教育支援センターの設置促進
・多様な学びの場や居場所の確保　　など
　教育活動を充実させる取組を推進

社会的自立に向けて　学校が担う役割・意義

〇個に応じた**多様な支援を選択肢**として設定

〇児童生徒の**「自分はどうありたいか」**といった希望や願いを把握

〇児童生徒が受ける支援を**自分で選択**

安心して本音を話せる関係性の構築

対話やコミュニケーションを通して、その子にあった選択肢を一緒に探し、前向きな気持ちや他者との関りがもてるように支援

【研究内容】

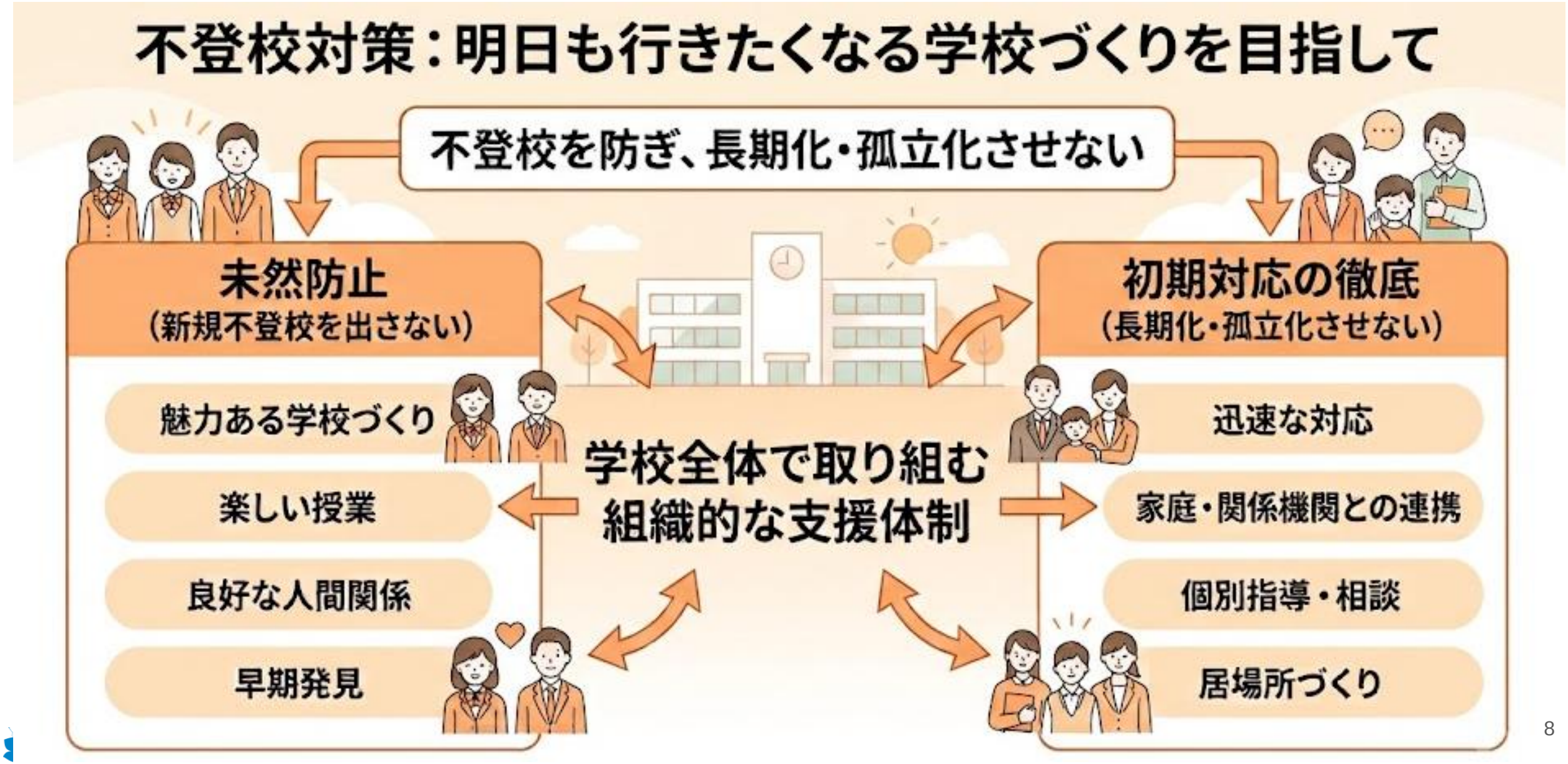
１　児童生徒の状況を把握するための**初期対応の徹底**

２　児童生徒一人一人の**状況に応じた支援体制**の構築

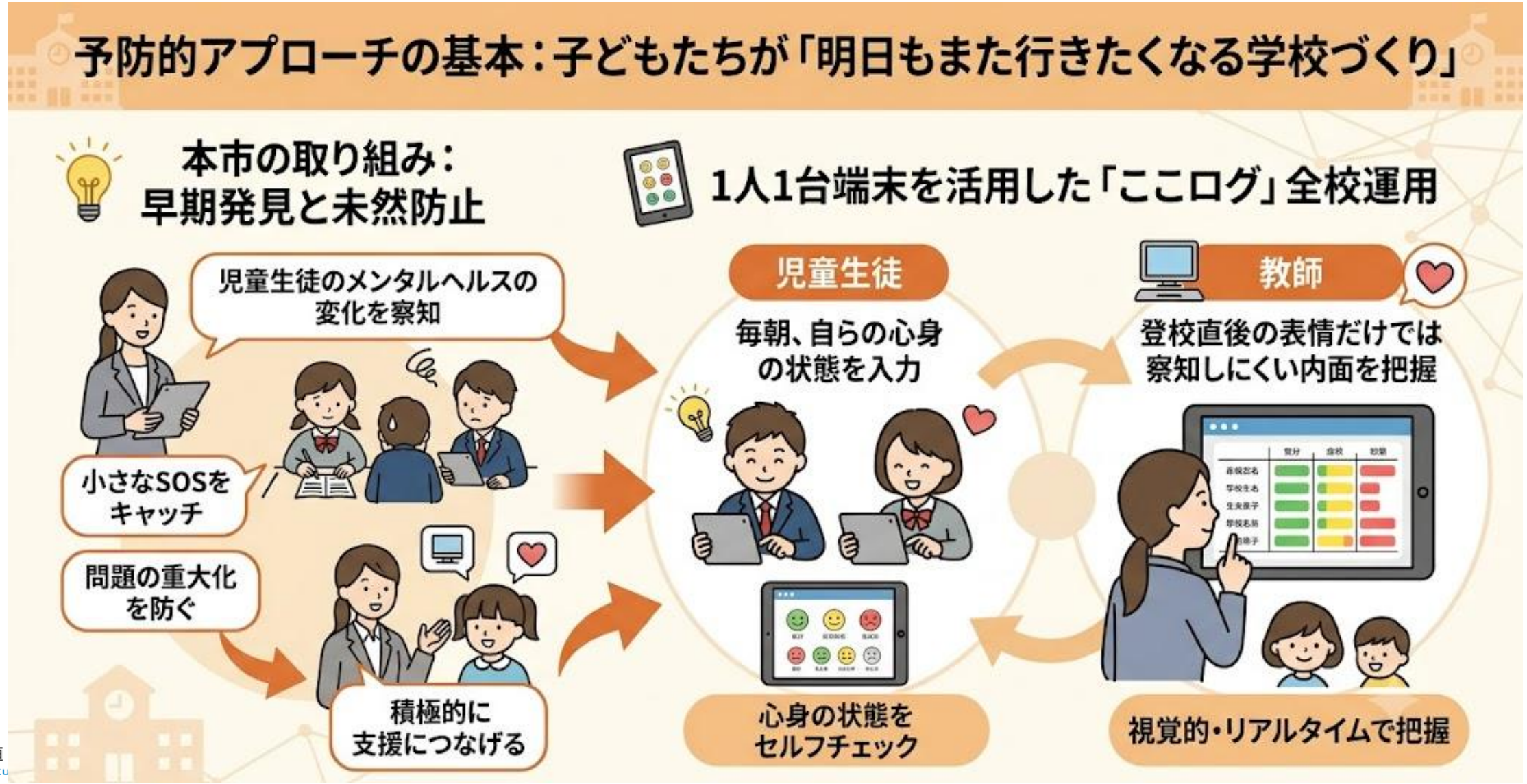
研究実践



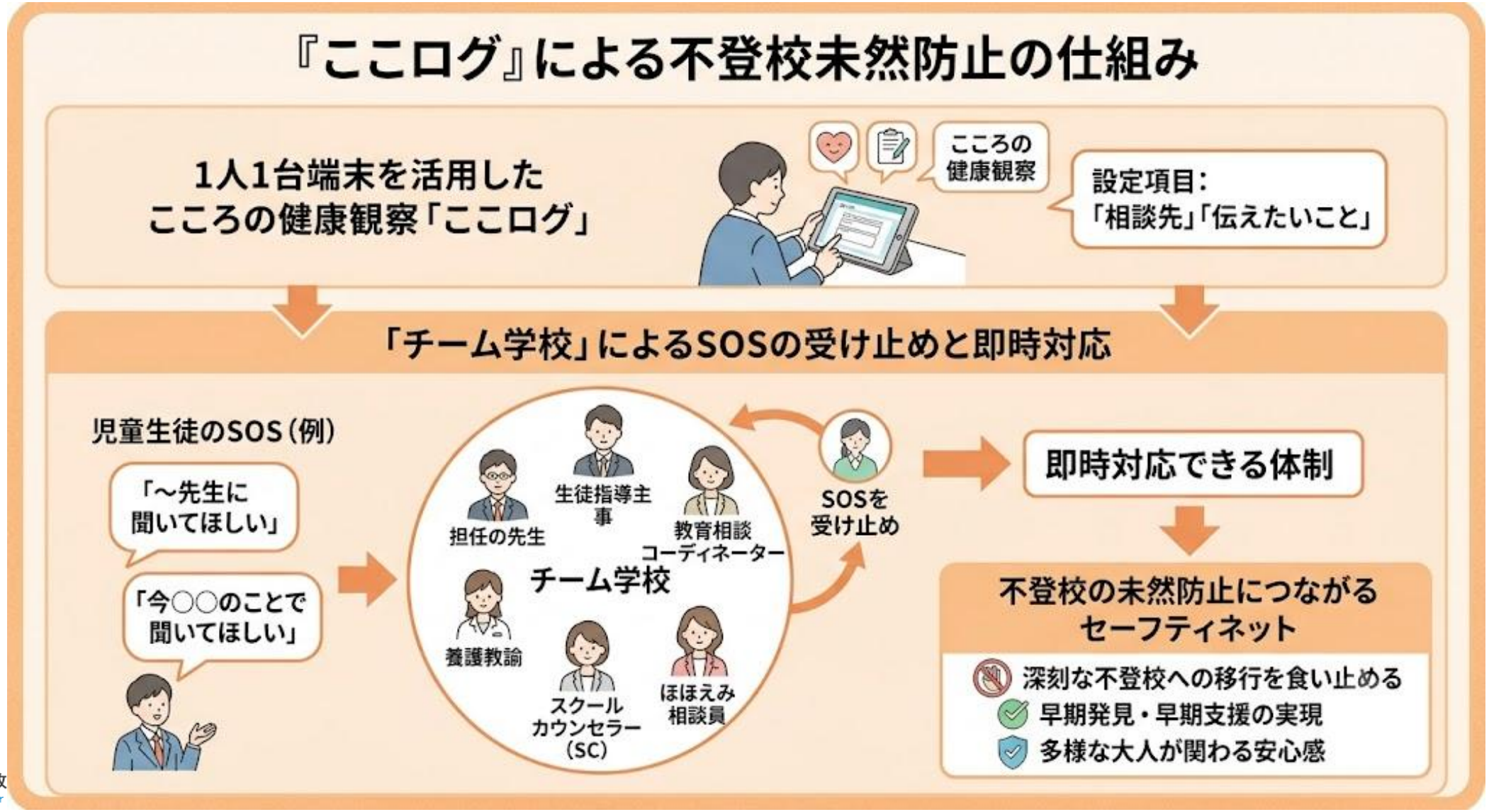
1　児童生徒の状況を把握するための初期対応の徹底



１　児童生徒の状況を把握するための初期対応の徹底
（１）1人1台端末を活用した「こころの健康観察」



１　児童生徒の状況を把握するための初期対応の徹底
（１）1人1台端末を活用した「こころの健康観察」



１　児童生徒の状況を把握するための初期対応の徹底

（２）児童生徒の欠席に係る初期対応

＼ 欠席初日 / 2日目 ／

状況に合わせた対応

「電話連絡」または
「家庭訪問」を実施

重要なアラート

欠席が
『3日』に
達した段階

【迅速な初期対応①】
家庭訪問

保護者・児童生徒
と直接面談



【迅速な初期対応②】
ケース会議の実施
※担任一人に抱え込ませない

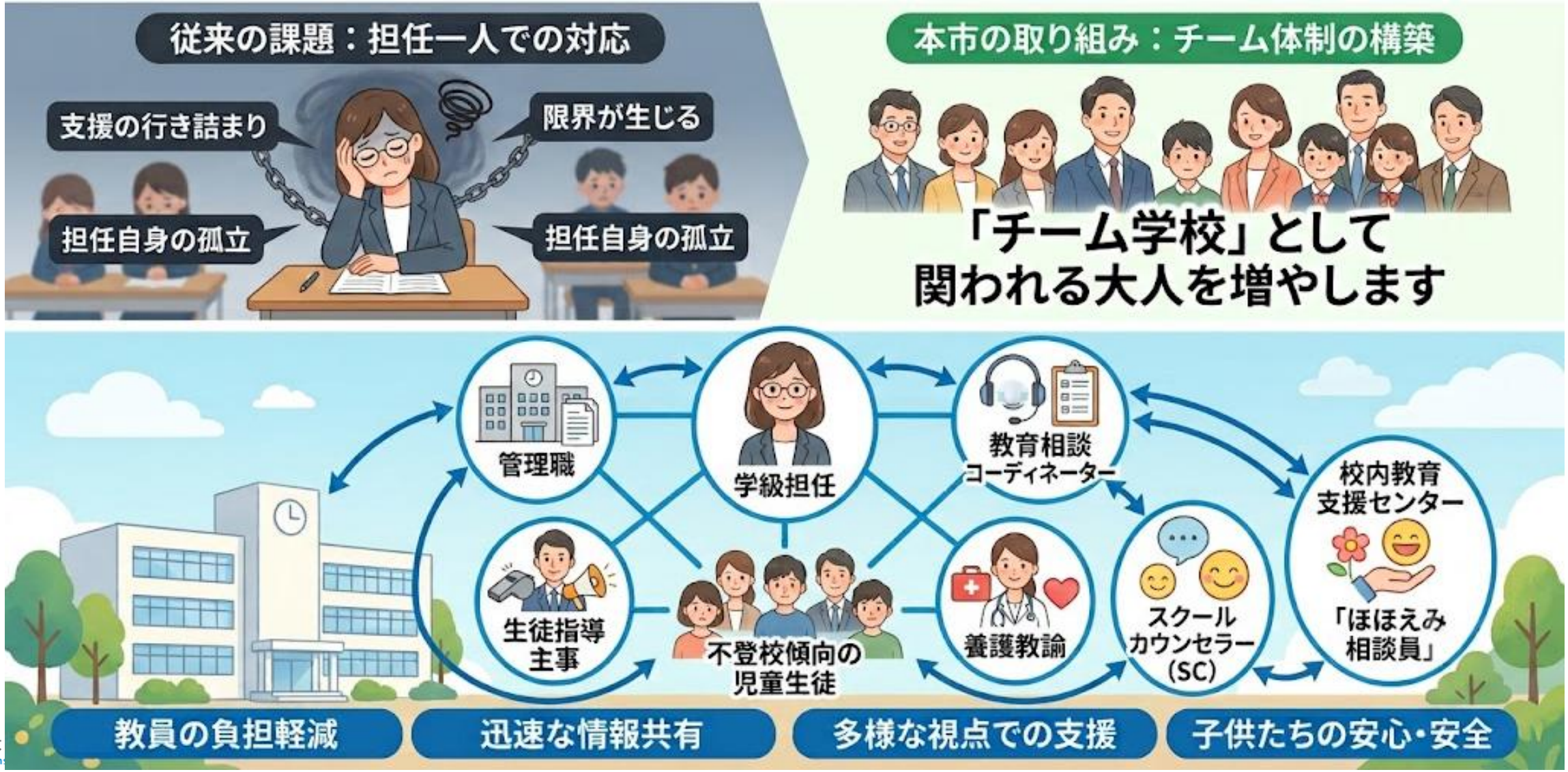
校内での情報共有

- 児童生徒の状況
- 背景
- これまでの経緯
- 家庭の様子

初期対応を確実に行い、
早期改善に向けた
支援の方向性を確立

早期発見・早期対応

１　児童生徒の状況を把握するための初期対応の徹底
（３）「チーム学校」による連携・アセスメント



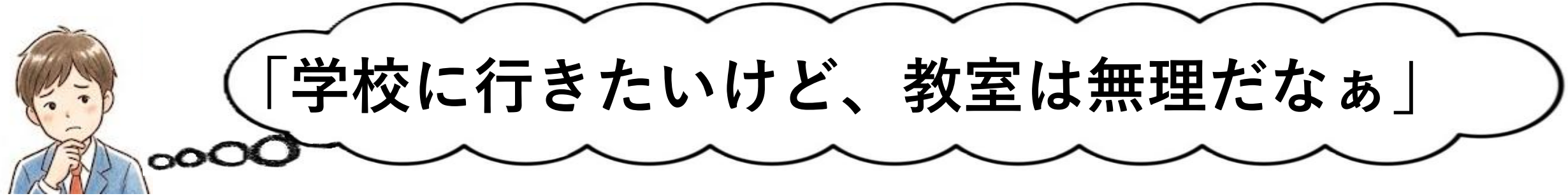
１　児童生徒の状況を把握するための初期対応の徹底
（３）「チーム学校」による連携・アセスメント



従来の孤立しがちな担任



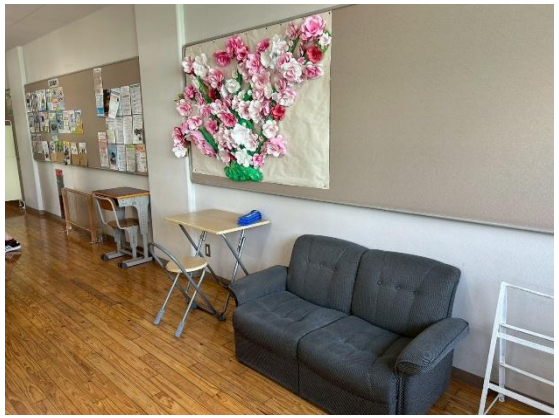
2　児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制の構築



「校内教育支援センター」及び「ほほえみ相談員研修の充実」

- 市内全学校に「学校内教育支援センター」を設置
- 市内全学校に「ほほえみ相談員」を配置









2　児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制の構築



「毎日登校するのはしんどいなぁ」

1つ目　適応指導教室「ほほえみ教室」　**2つ目**　フリースペース型適応指導教室「とまり木教室」

・学校外教育支援センター「H9～ほほえみ教室」と「R6～とまり木教室」の設置と運営





2　児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制の構築



「登校はしんどいけど、勉強が心配だなぁ」

3つ目　**ほほえみスタディーサポート（HSS）**

《学習支援員が週1～2回（2時間程度）学習支援を行います。》



なかなか学校に行けない
大垣市内の小・中学生のみなさんへ

あなたの家まで訪問します。
※保護者がいらっしゃる時間帯に訪問します。

ていねいに学習をすすめます。

詳しくは学校または下記まで
お問い合わせください。



2　児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制の構築



「登校はしんどいけど、人と関わる機会があるといいなぁ」

４つ目　**メンタルフレンド（MF）**

“メンタルフレンド„ とは？

悩みや不安を抱えているお子さんの家庭を訪問して、一緒に遊んだり、話をしたりしながら、お子さんの成長を導くお手伝いをするスタッフのことです。学生の方に、ボランティアとして参加していただいています。
※個人情報は守ります。

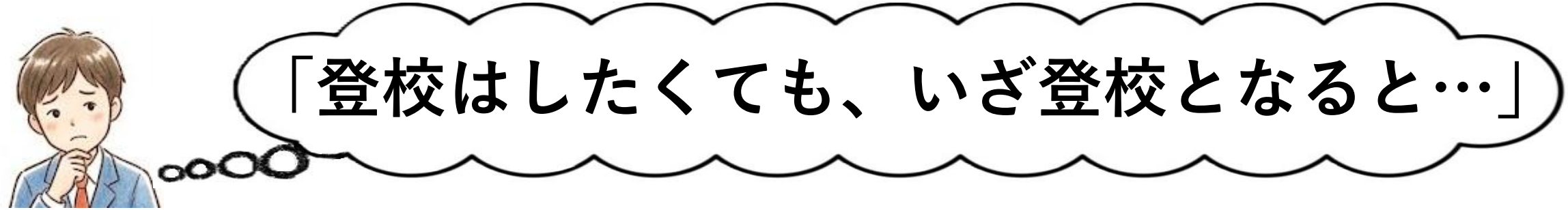




あなたの家庭に訪問します！

学校に行きたくても行けない、誰かに話を聞いて欲しい、友だちと遊びたくてもきっかけがつかめない、外出するのに抵抗がある。
そんなお子さんの心の支えになります！
※対象は市内に在住の小学生から中学生までです。
※保護者がいらっしゃる時間帯に訪問します。

2　児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制の構築



５つ目　**研究所相談員による登校支援**

＜通うことが難しい児童生徒への支援＞　家庭訪問等による支援

不登校児童生徒
（付き添いがあれば登校可）

⇒

学校⇒研究所へ依頼
ケース会議の実施

⇒

家庭での顔合わせ
＋
登校支援開始

2　児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制の構築



「人と会うのがしんどいなぁ…」

6つ目　**インターネット仮想空間（メタバース）　本格運用R7～**

・学校とコミュニケーションがなかなかとれない児童生徒
・家族以外の外部の誰とも繋がりがもてていない児童生徒　への支援



・チャットやクイズでやり取り



・子どもと先生がコミュニケーションを図る

Ｒ７：１２人（のべ１１２回参加）

6つ目

インターネット仮想空間（メタバース）

令和８年度より「マインクラフト」（教育版）を導入
不登校児童生徒同士が**お互いにコミュニケーション**をとったり、共通の目標に対する**協働的な活動を通して、他者とつながる喜びを再体験**

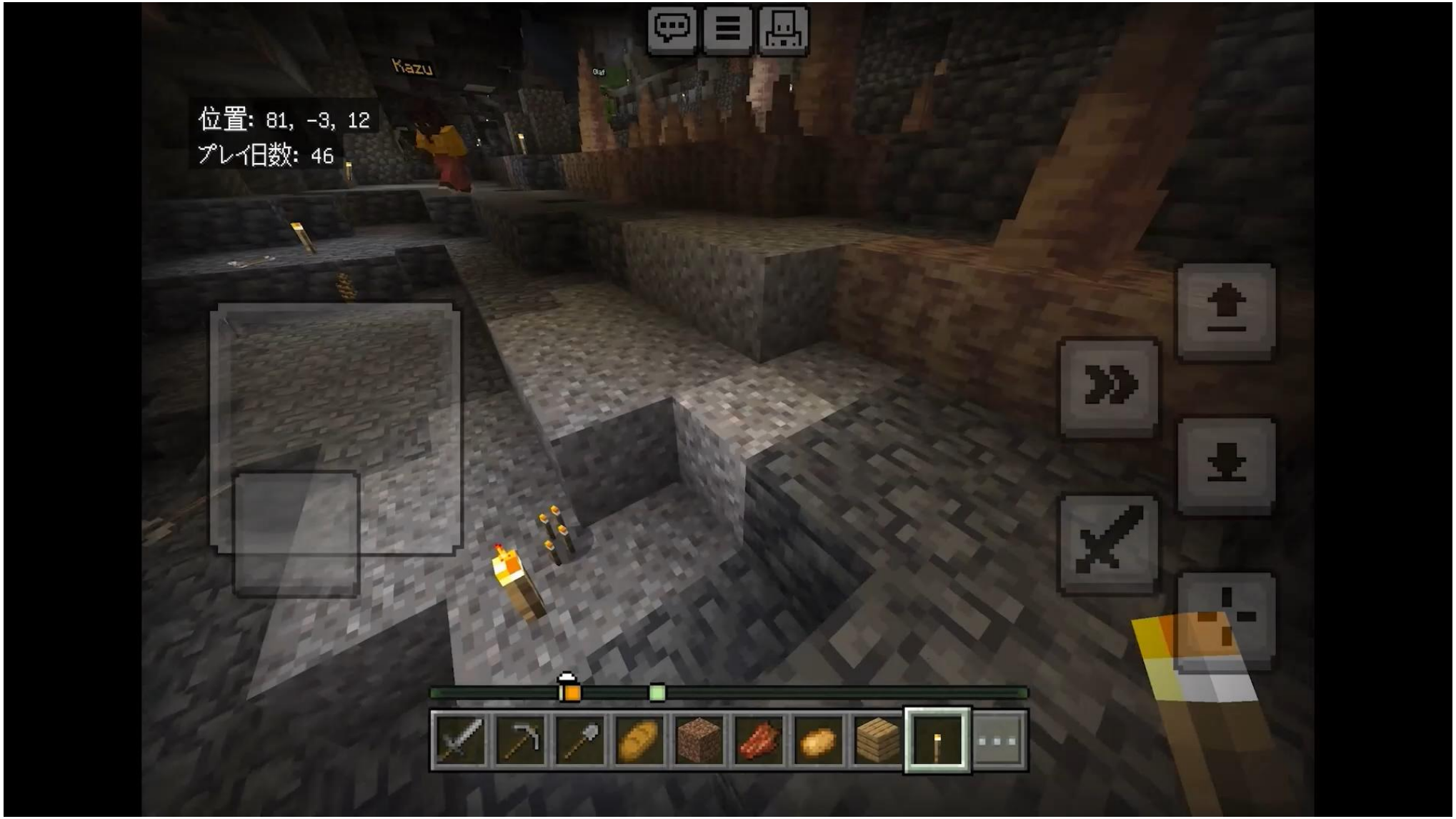




6つ目

インターネット仮想空間（メタバース）

実際の活動動画



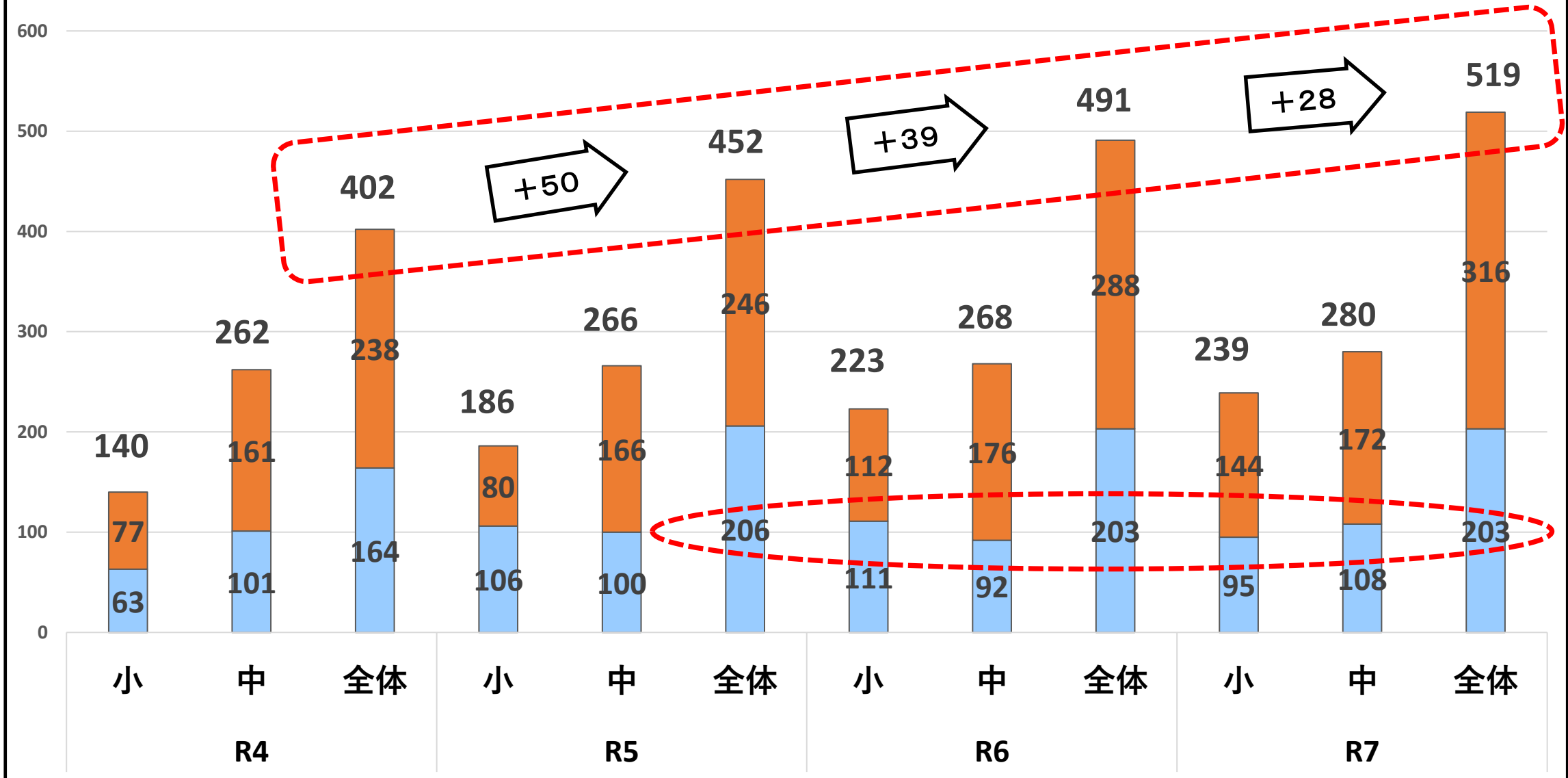
成果と課題



【成果】

・欠席３日の児童生徒に対し、**適切な初期対応が定着し、新規の不登校児童生徒数は抑えられている。**

不登校児童生徒数（年間欠席30日以上）

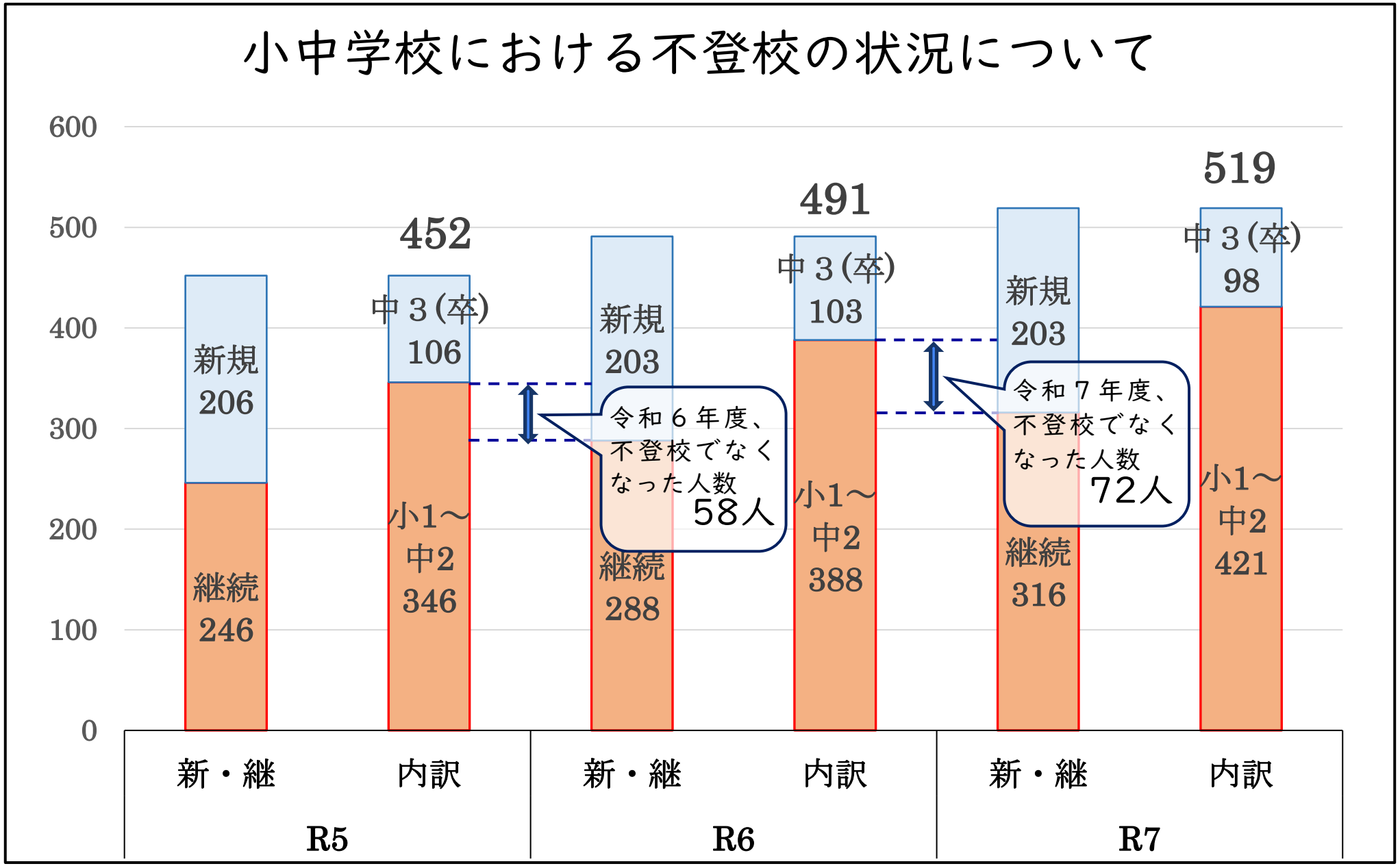


大垣市児童生徒数　11371人（R8.5.1現在）

【成果】

・様々な支援が届いたことで、心のエネルギーが溜まり、不登校でなくなった児童生徒がいる。

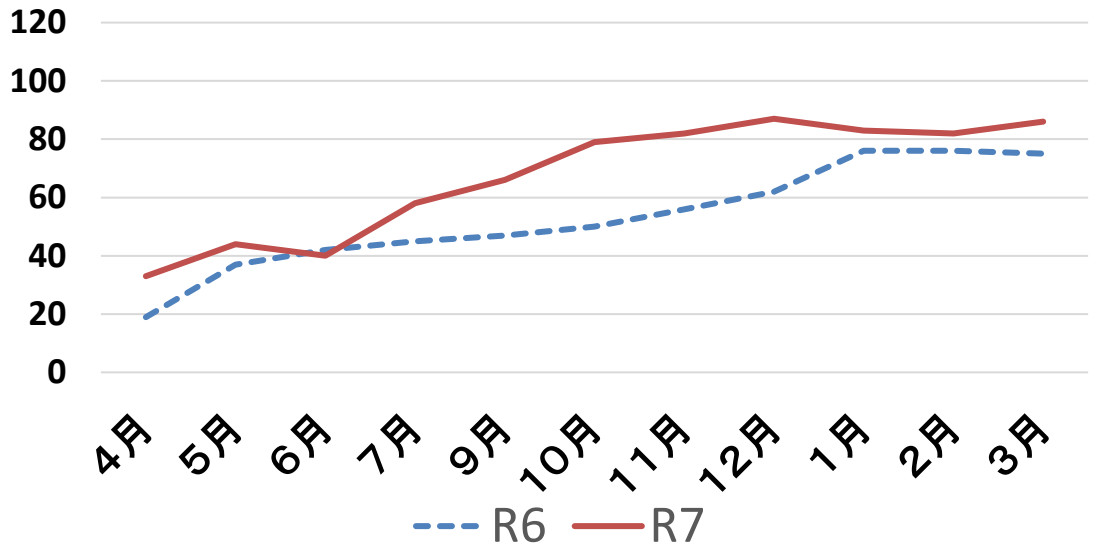
小中学校における不登校の状況について



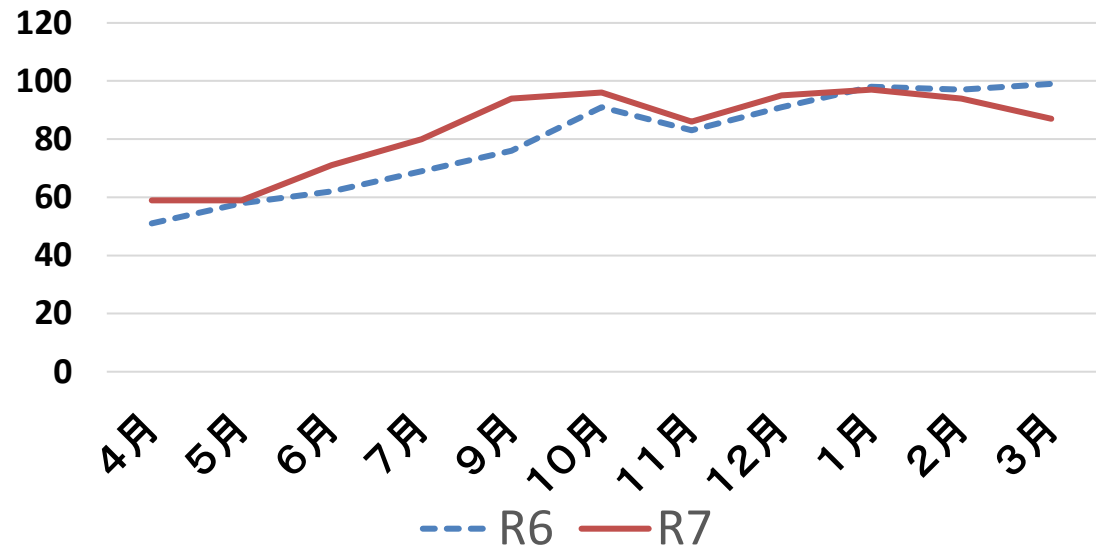
【成果】

- 「学校・教室以外の居場所」の確保ができている。

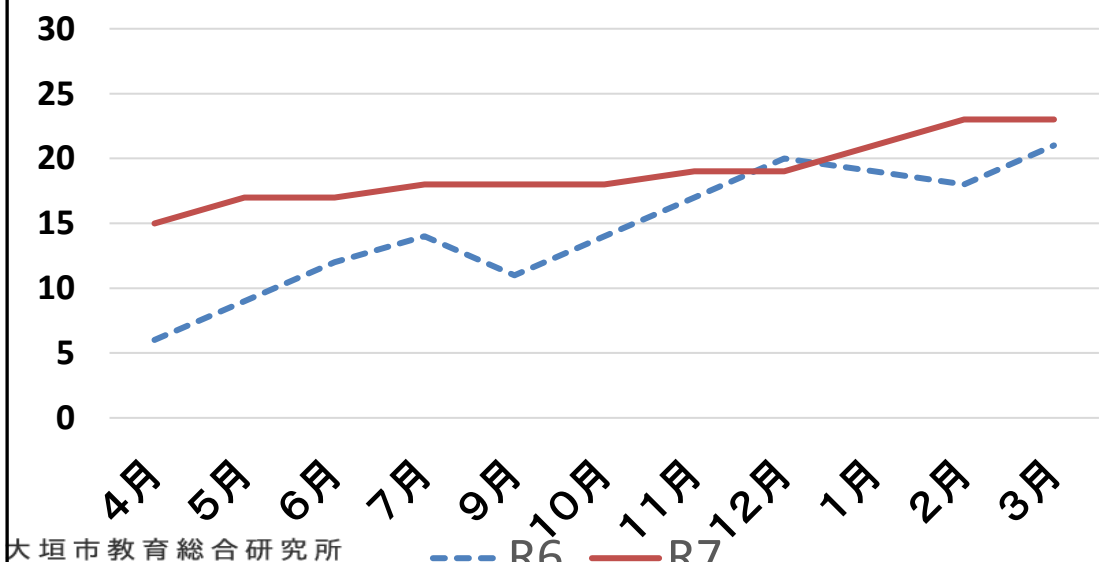
校内教育支援センター（小学校）



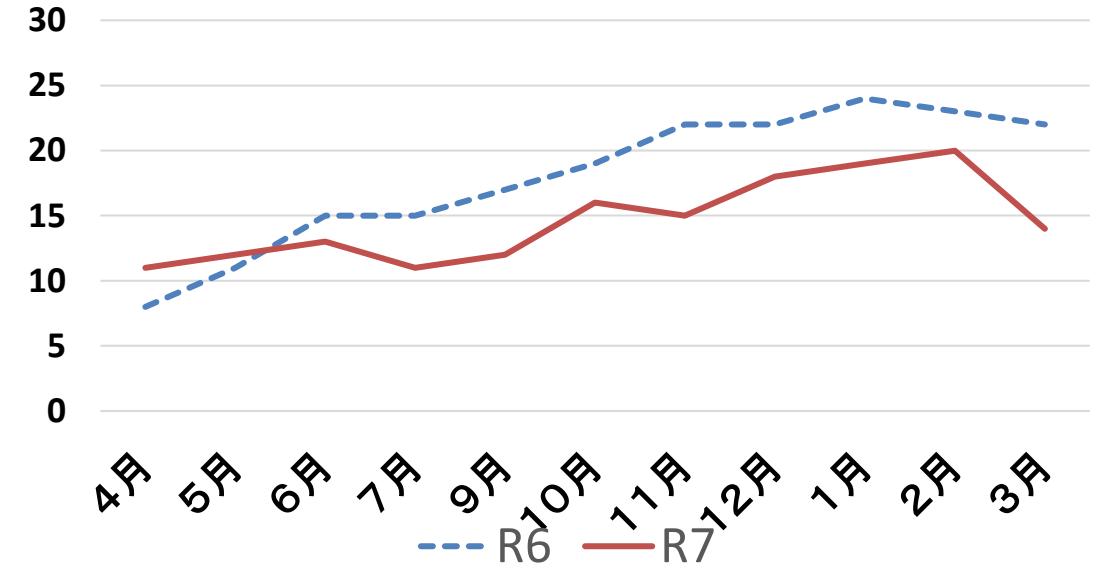
校内教育支援センター（中学校）



ほほえみ教室、とまり木教室・民間フリースクール（小学校）



ほほえみ教室、とまり木教室・民間フリースクール（中学校）



【課題】

- 継続的かつ丁寧なアセスメントと、段階に合わせた適切な支援が行き渡るようにする。

- ７つの不登校支援をさらに周知し、「どこにもつながっていない児童生徒」や「全欠（年間欠席日数100%）」の児童生徒に支援を届ける。

大垣市の不登校対策と不登校支援

大垣市教育総合研究所では「今は学校に行くことがつらい」と感じている児童生徒のみなさんとその保護者の方々を対象に、一人ひとりの状況に合わせた「７つの支援」を行っています。「相談したい」「話を聞いてほしい」という場合、お気軽にご連絡ください。児童生徒のみなさんの状況や気持ちを聞き、支援について相談、選択ができます。臨床心理士・公認心理師による相談・検査も実施可能です（保護者の方々のみのご相談も可能です）。

毎日登校するのは しんどいなぁ





①適応指導教室『ほほえみ教室』

学習・集団活動を通して、自分のペースで体験活動ができます。

②フリースペース型適応指導教室『とまり木教室』

落ち着いた空間で、自分のペースでゆっくり過ごすことができます。

登校はしんどいけど、勉強が…



③ほほえみスタディサポート（HSS）

学習支援員が週1～2回家庭訪問し、自宅での勉強をサポートします。



④メンタルフレンド（MF）

大学生が家庭訪問し、一緒に遊んだり話したりして交流の幅を広げます。

登校したくても、いざ登校となると



⑤登校支援

教育総合研究所の相談員が一緒に話をしながら登校をサポートします。

人と会うのがしんどいなぁ



⑥メタバース

アバターとして仮想空間に参加し、学習や交流をすることができます。



その他のアプローチとして



⑦民間フリースクールとの連携

学校と連携をしながら、フリースクール等に通学中のお子さんも研究所が見学・応援します。

市全体のバックアップ体制と専門的アプローチ



1人1台端末による心の健康観察

心の健康観察アプリを使って、心の状態を確かめ、相談したい先生に安心して相談できます。



校内教育支援センター

各学校のほほえみ相談員が、学校内での安心できる居場所を作ります。



臨床心理士による教育相談・検査・カウンセリング

誰でも相談でき、保護者の方々はお子さんの状況を詳しく知ることができます。



ほほえみ教室高校説明会

不登校児童生徒を対象とした高校説明会を行います。



西濃学園・愛知教育大学との連携

2校との連携を図り、不登校の要因分析や支援の工夫を行い、教職員の資質向上を目指します。



スマイルサポートチームとの連携

様々な機関と連携し、児童生徒や保護者のみなさんの困り感に寄り沿い支援します。

７つの支援

市内全ての学校に周知済み

教育委員会広報誌にも掲載し、各家庭に周知済み